

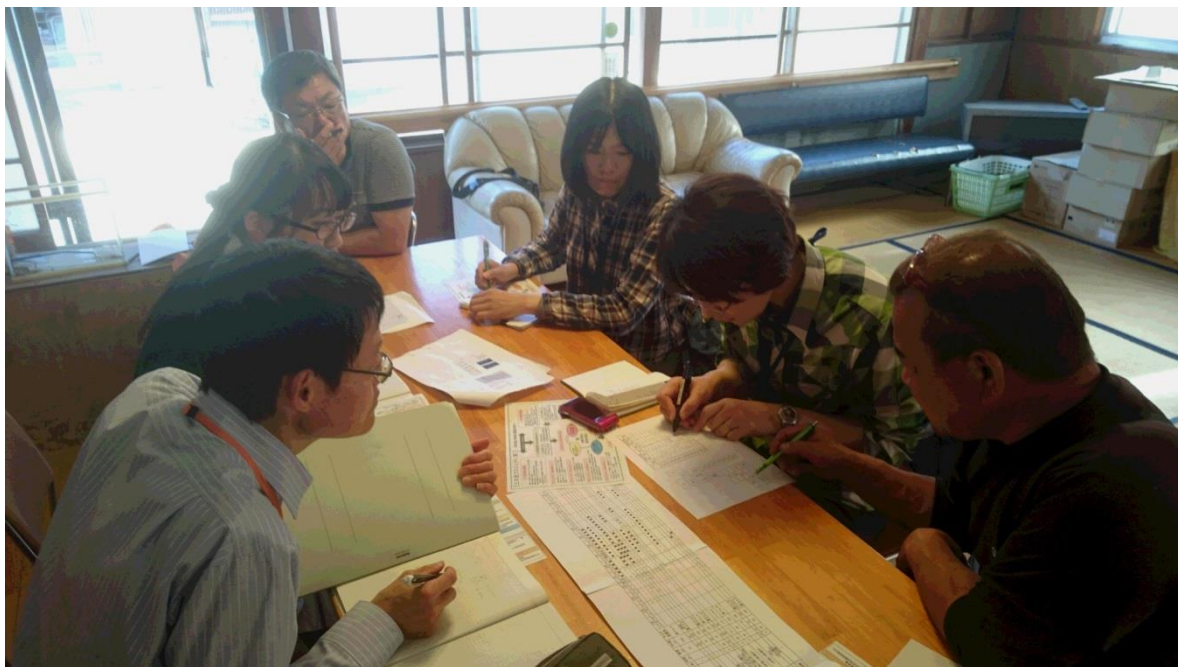
(株)やきやまふあーむで野菜の作付けを検討

農業を取り巻く環境、消費者の嗜好の変化が大きくなっています。その中で、農業者が経営を維持し、長年の知識、経験を活かすには新しい発想による経営が必要になっています。自分はこの農産物を作りたいのだろうか。」「この農産物をどのようにしたいのだろうか。」など色々考える中で、自分のやりたい経営の方向性を見つけることが大切です。

今回は、(株)やきやまふあーむの経営について、紀州地域農業改良普及センターの助言を受けながら、今後の経営について検討しました。

(株)やきやまふあーむは、平成21年度に地元の建設会社が経営母体となり、障がい者就労継続支援事業A型事務所として設立されました。現在、25名の障がい者と、5名の職員、4名のパートが働いています。菌床椎茸、ハウストマト、露地野菜の生産だけでなく、生産物の加工や直売所の運営、移動販売にも取り組んでいます。また平成24年には「地域活性化プラン」*を作成し、トマトの加工品「とまとけちゃっぷ」を開発・販売を始めました。

話し合いするなかで、まずは消費者ニーズを知ること、現在の消費者動向を知り、今後の消費動向を予想することが大事と認識しました。そのうえで、これまでの野菜の作付けや販売実績データを整理し、分析と検証を行い、今後の秋冬野菜の作付けを検討することになりました。



「地域活性化プラン」とは、平成22年12月に施行された「三重県食を担う農業及び農村の活性化に関する条例」に基づき、農村地域団体による地域の特性を生かした将来ビジョンとして策定されたもので、三重県ではプランの目標達成へ向けた支援を行っています。